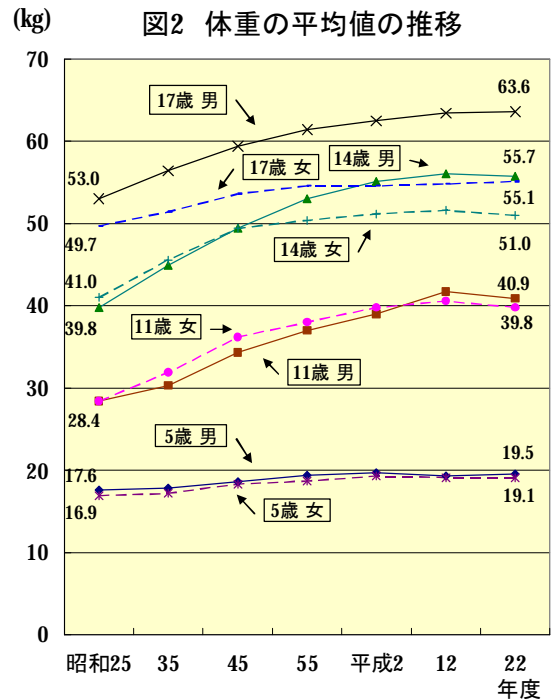
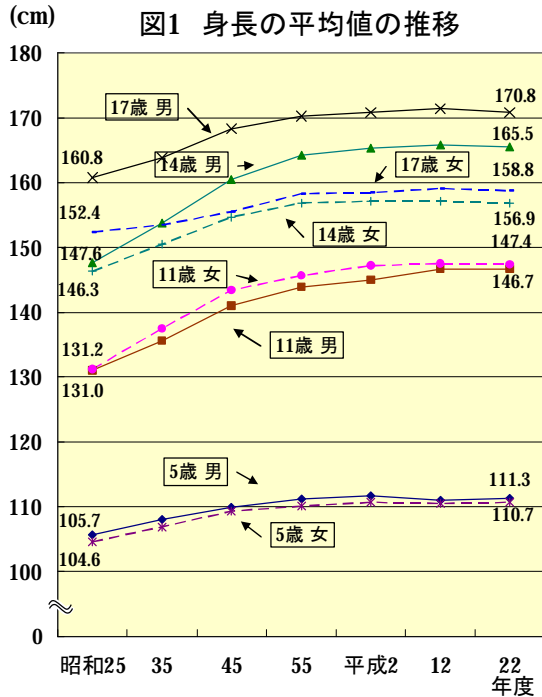


平成 22 年度学校保健統計調査速報(山形県) 調査結果のポイント

1 「身長」及び「体重」の平均値の推移

身長は、全国平均の推移と同様、男女ともに昭和 23 年度以来増加傾向にあったが、ここ 10 年はほぼ横ばい傾向である。

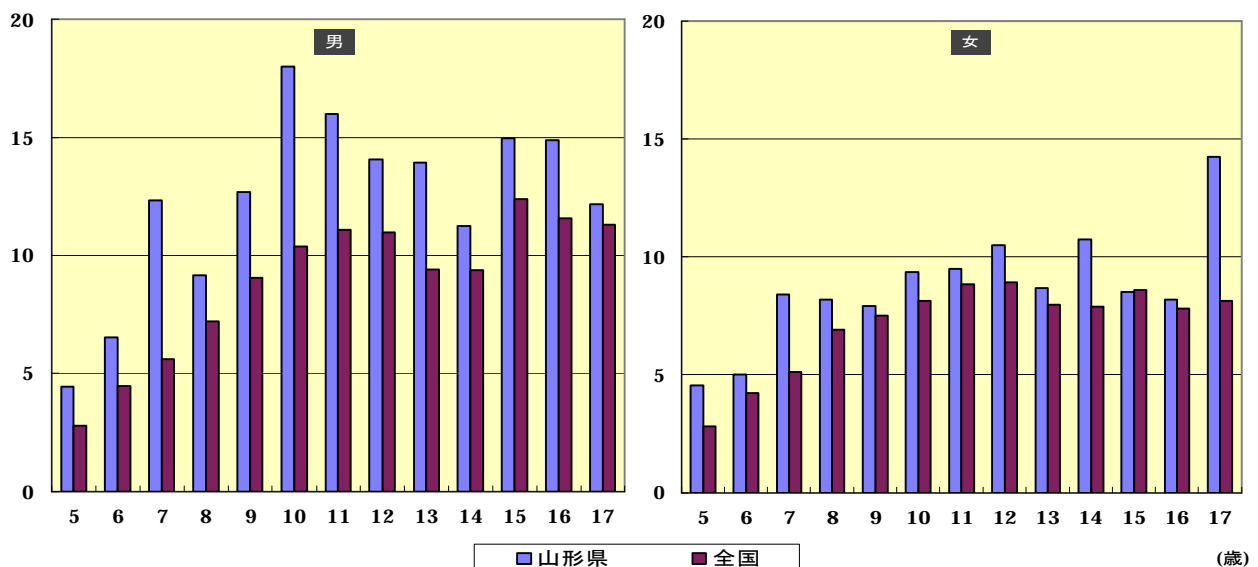
体重は、全国平均の推移と同様、男女ともに昭和 23 年度以来増加傾向にあったが、ここ 10 年では、減少傾向の年齢も見られるようになった。



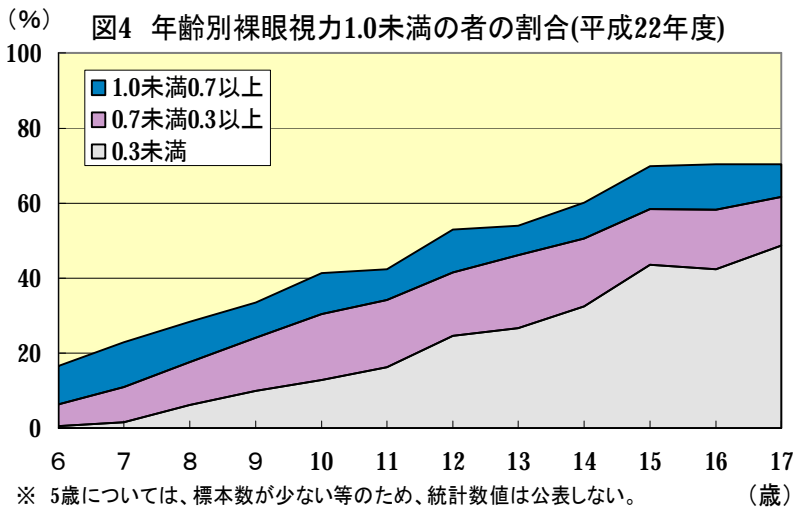
2 「肥満傾向児」の出現率

「肥満傾向児」の出現率は、男子は7歳、9歳から17歳の年齢で、女子は12歳、14歳、17歳の年齢で10%を越えており、男子はすべての年齢で、女子は15歳を除くすべての年齢で全国平均を上回っている。

図3 年齢別肥満傾向児の出現率(平成22年度)



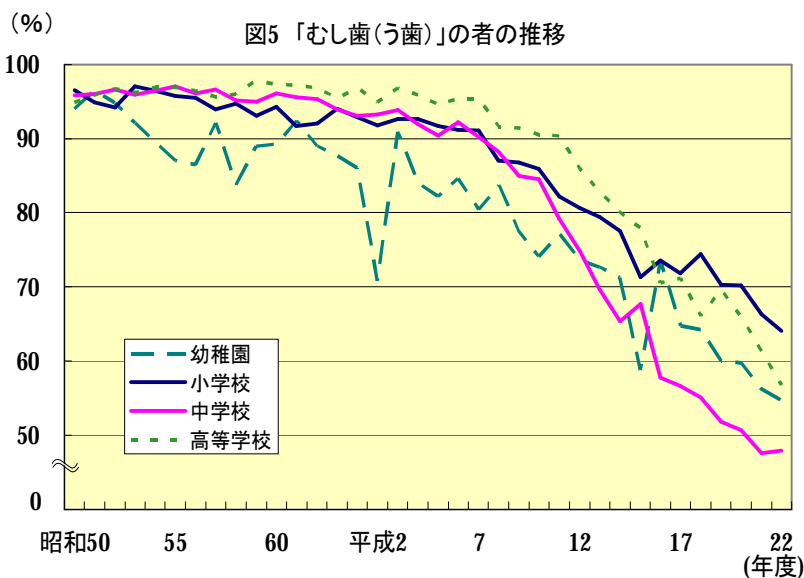
3 「裸眼視力 1.0 未満」の者の割合



「裸眼視力 1.0 未満」の者の全体に占める割合は 16 歳及び 17 歳が 70.4%で最も高い。

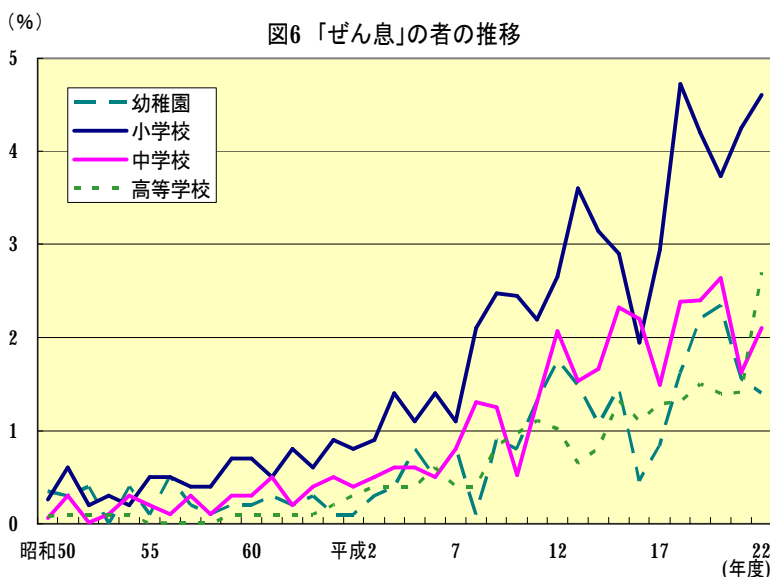
また、「裸眼視力 1.0 未満」の者の割合を全国平均と比較すると、小学校、中学校、高等学校ともに全国平均を上回っている。

4 「むし歯(う歯)」の者の推移



「むし歯(う歯)」の者の割合は、全国平均の推移と同様、各学校種別において低下しており、特に中学校においては、35 年前の半分程度まで低下している。

5 「ぜん息」の者の推移



「ぜん息」の者の割合は、全国平均の推移と同様、各学校種別において増加傾向にあり、特に小学校においては、ここ5年は3%を超える状況が続いている。